

グッズ販売義援金に

矢巾の顧客にも協力要請 モリレイ

矢巾町流通センター
南3丁目の業務用食品
卸売業モリレイ(岡村
弥社長)は、グッズの

心一つに
「内陸」から
支える

売り上げを義援金に充
て、受注数に応じて顧
客からの寄付金が増え
る仕組みを導入するな
ど独自の取り組みで被
災地支援を展開してい
る。仕入れ先や顧客も
一体となったより大き
な輪で、息の長い支援
を目指す。

活動の一つは、リス

トバンドを約1千個作
り、売り上げを義援金
に充てる支援。「TO
HOKU NEVER
GIVE UP」と
刻字し、1個300円
に個々の「気持ち」を
上乗せして販売。全社
員約90人が1個以上買
ったほか、関係先にも
協力してもらった。

また、同社が顧客か
ら商品を受注する際、
納品伝票の1行(1品
目)につき1円ずつ寄
付してもらう活動も展
開。注文が多いほど顧
客も支援に協力したこ
とになる。

「伝票1行につき1
円」の4、6月の実績
は月当たり約10万円。
1年間で約120万円
になる計算だ。

社内の自主組織・ボ
ランティア委員会(山
田育男委員長)は4月
から月1回、被災地で

支援活動に励み、今月
は24日に大槌町で実
施。これまでで最多の
21人が参加した。

山田委員長は「津波
で流入した泥の中で生
活している人もいた。
役に立ちたい」と強調。
同社管理グループの似
里徳彦部長は「被災地
には職を失った人が多
く、勤労することのあ
りがたみをかみしめ支
援させていたたいとい
る」と取り組みの継続、
充実を誓う。

大槌町は、津波で町
災し使用できなくなっ
た行政無線による放送
日正午から再開する。
以降、流れていなかっ
た故井上ひさしさん原作
「ひよっこりひよろうた
テーマ曲が、新たな音
する。

音源を提供したのは
と親交があったジャズ
ト、小曾根真さん。テ



被災地での支援活動について話し合うモ
リレイのボランティア委員会のメンバー